

あなたの街の

保存版

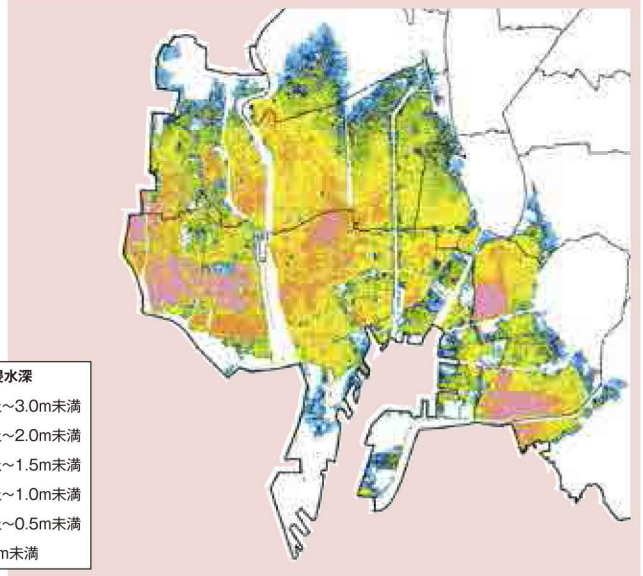
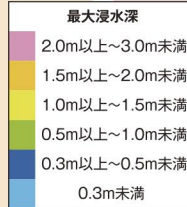
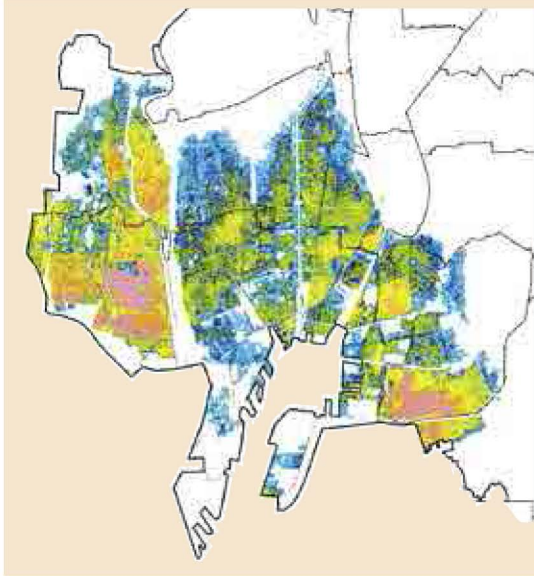
港区

津波ハザードマップ

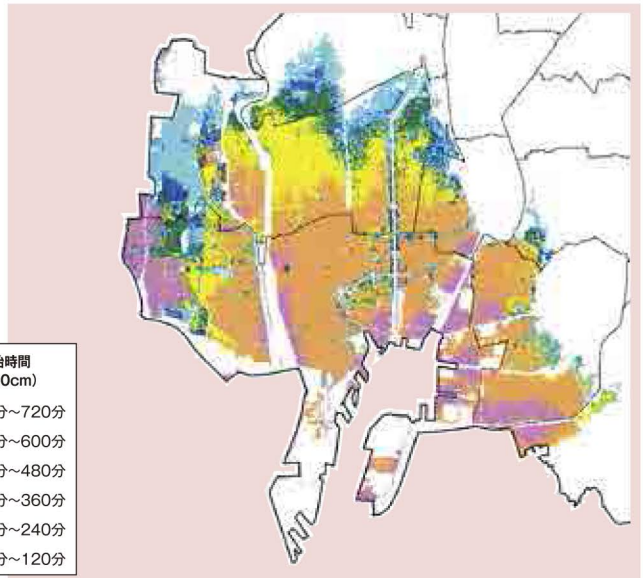
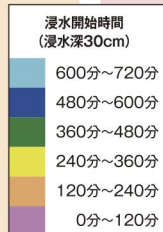
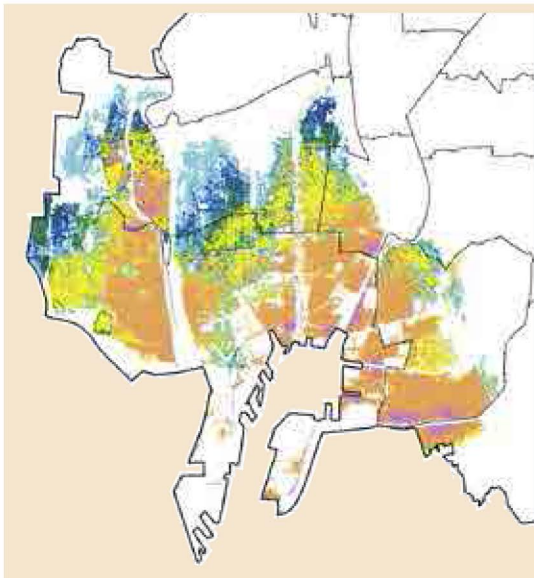
過去の地震を考慮した最大クラス

あらゆる可能性を考慮した最大クラス

浸水範囲



浸水開始時間



このマップは、本市が平成26年2月に公表した「南海トラフ巨大地震の被害想定」をもとに、満潮時に各地で想定される津波の浸水範囲や浸水開始時間、津波避難ビルなどを示したものです。

南海トラフにおいて、おおむね100～200年の間隔で繰り返し発生する地震として「過去の地震を考慮した最大クラス」と、千年に一度あるいはそれよりもっと発生頻度が低いが、仮に発生すれば甚大な被害をもたらす地震として「あらゆる可能性を考慮した最大クラス」の2つの地震を想定しています。

防災マップの最新情報は
名古屋市公式ウェブサイト
をご覧ください。 www.city.nagoya.jp

名古屋市 防災マップのページ



「名古屋市防災アプリ」でハザードをご確認いただけます。

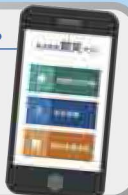
無料
ダウンロード



iOS版



アンドロイド版



名古屋市

問い合わせ先

防災危機管理局地域防災室

TEL 052-972-3591

FAX 052-962-4030

令和2年8月時点

名古屋市で予想される津波等の特徴

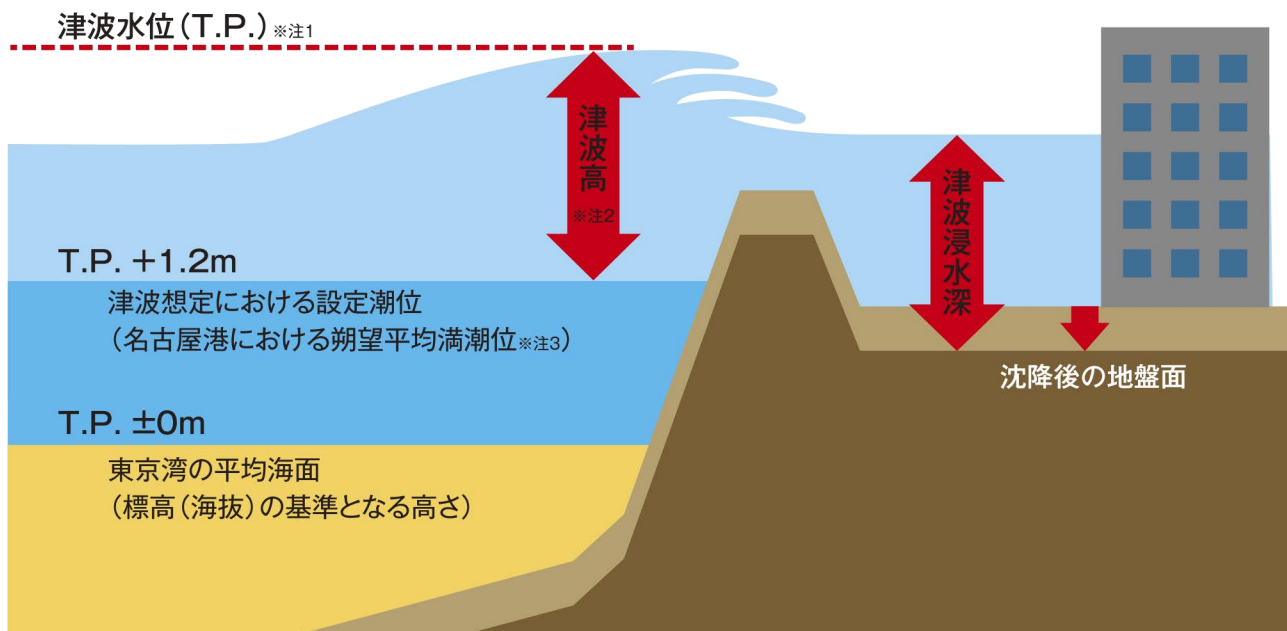
①津波等の様相

- 本市で予想される津波は、12時間程度続きます。本市が外海ではなく伊勢湾の奥に位置することから、東北地方太平洋沖地震とは異なり、白波を伴わずに海面全体が上昇し、その後下降するといった津波が予想されます。そのため、視覚的に津波と判断できなくても、できるだけ高いところへ避難してください。
- 本市の陸地に浸水する津波の速さは、海岸や河川に近い地域では一般成人の走る程度(毎秒2m程度)、内陸部では早歩き程度(毎秒1m程度)以下ですが、場所によってはそれよりも速くなる場合があります。また、障害物などにより津波からまっすぐ逃げられるとは限りませんので、津波が見えてからでは逃げ遅れる可能性があります。強い揺れを感じたら津波を警戒してできるだけ高いところへ避難してください。
- 堤防が破堤した場合は、津波が到達する前に海や川の水が流入するおそれがあります。また、津波が収まっても地盤の低い地域では浸かったままの状態が長期間にわたって続くおそれがあります(あるいは潮汐によって一時的な浸水を繰り返します)。

②津波の到達時間等

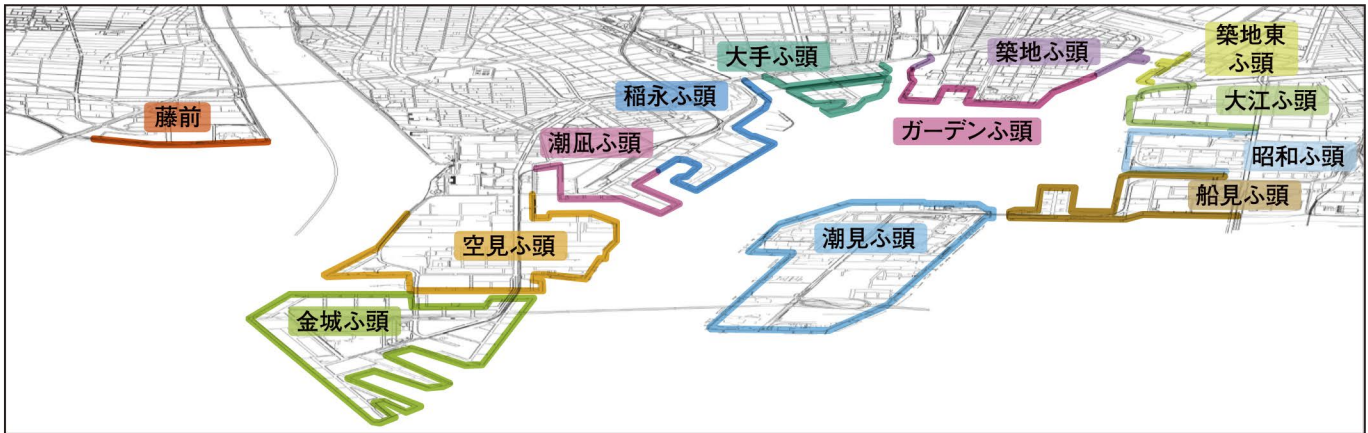
| | 津波到達時間 (津波高30cm) | 津波水位 (T.P.) | 津波高 |
|-----------------------|---------------------|----------------|---------|
| 過去の地震を考慮した 最大クラス | 最短 102分 | 最高 3.3m | 最大 2.1m |
| あらゆる可能性を考慮した 最大クラス | 最短 96分 | 最高 3.6m | 最大 2.4m |

※T.P.(東京湾平均海面)値をN.P.(名古屋港基準面)値に変換する場合は、1.4mを加算



※注1 津波の潮位に、地震による地殻変動の沈降量を加えた値。 ※注2 津波水位から、潮位を引いた高さ。 ※注3 朔(新月)および望(満月)の日から5日以内に現れる、各月の最高満潮面の平均値。

③津波の到達時間等(海岸線ごと)



| ふ頭名称 | 過去の地震を考慮した最大クラス | | | | あらゆる可能性を考慮した最大クラス | | | | |
|--------|---------------------|------------------|----------|-------|---------------------|------------------|----------|-------|------|
| | 津波到達時間 (津波高30cm) | 最高津波水位 (T.P.) | 潮位(T.P.) | | 津波到達時間 (津波高30cm) | 最高津波水位 (T.P.) | 潮位(T.P.) | | |
| | | | 1.2m | 最大津波高 | | | 1.2m | 最大津波高 | |
| 金城ふ頭 | 102分 | 3.1m | 1.2m | 1.9m | 96分 | 3.2m | 1.2m | 2.0m | |
| 空見ふ頭 | 106分 | 3.2m | | 2.0m | 99分 | 3.4m | | 2.2m | |
| 潮風ふ頭 | 107分 | 3.2m | | 2.0m | 102分 | 3.4m | | 2.2m | |
| 稲永ふ頭 | 108分 | 3.3m | | 2.1m | 103分 | 3.5m | | 2.3m | |
| 大手ふ頭 | 108分 | 3.3m | | 2.1m | 103分 | 3.5m | | 2.3m | |
| ガーデンふ頭 | 108分 | 3.3m | | 2.1m | 103分 | 3.6m | | 2.4m | |
| 築地ふ頭 | 108分 | 3.3m | | 2.1m | 104分 | 3.6m | | 2.4m | |
| 築地東ふ頭 | 108分 | 3.3m | | 2.1m | 104分 | 3.6m | | 2.4m | |
| 大江ふ頭 | 108分 | 3.3m | | 2.1m | 103分 | 3.6m | | 2.4m | |
| 昭和ふ頭 | 107分 | 3.3m | | 2.1m | 103分 | 3.6m | | 2.4m | |
| 船見ふ頭 | 104分 | 3.3m | | 2.1m | 100分 | 3.6m | | 2.4m | |
| 潮見ふ頭 | 104分 | 3.3m | | 2.1m | 98分 | 3.5m | | 2.3m | |
| 藤前 | 113分 | 3.0m | | | 1.8m | 107分 | | 3.1m | 1.9m |

要配慮者支援

本市では、高齢者や障害者など災害のときに地域の支援が必要な方々について「どこに住んでいるか」「どのように安否を確認するか」「どのように避難誘導するか」などを地域で事前に話し合っておく「助け合いの仕組みづくり」を推進しています。

要配慮者の方々を災害から守るために地域の皆さんで協力し助け合いましょう。

高齢者・病人など

- 援助が必要なときは、できるだけ複数の人で対応する。
- 誘導する時は、その人の体力に応じて、ゆっくり歩く。

目の不自由な方

- 話す時は、ゆっくり大きな声で対応する。
- 誘導する時は、杖をもっていない方の肘のあたりに軽く触れるか、腕を貸して半歩程度前をゆっくり歩く。
- 「あっち」「こっち」と言わず、「右斜め前10m」や時計の文字盤を想定して「10時の方向」などわかりやすく説明する。

肢体の不自由な方

- 障害に適した誘導方法を確認しておく。
- 車椅子の場合、階段では複数の人で協力する。上がる時は前向きに、下がる時は後ろ向きにして、恐怖感を与えないよう配慮する。

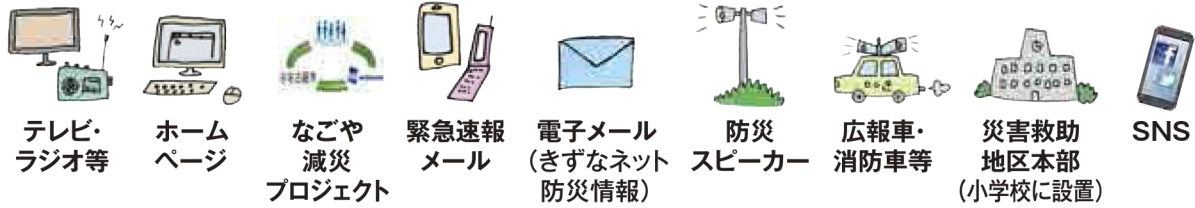
耳の不自由な方

- 話す時は、近くまで寄って相手にまっすぐ顔を向け、口を大きくはつきり動かす。
- 口頭でわからなければ、紙とペンで筆談する。紙やペンがなければ、相手の手のひらに指先で文字を書いて筆談する。

防災情報の入手方法

防災情報は
自ら入手しましょう!

地震や大雨などの災害が発生した時、または災害が発生するおそれがある時は、防災に関する情報を、テレビ・ラジオだけでなく様々な手段で市民の皆さんにお知らせします。



きずなネット防災情報

地震・津波や大雨などにより、災害発生が予想される場合の避難に関する情報や災害時に役立つ情報をメールでお知らせします。



緊急速報メール(エリアメール)

携帯電話事業者では、気象庁から配信される緊急地震速報や津波警報とともに、地方公共団体から配信する災害・避難情報を一斉配信するサービスの提供を行っています。

(受信機能のある機種に限られますが、対応機種でも受信設定が必要な場合があります。取扱説明書又は販売店にご確認ください)

名古屋市水防情報システム (NICOS)

市内及び周辺部の雨量や河川水位の状況などをインターネット上で確認することができます。早期避難の判断などに役立てください。

パソコンをご利用の方はこちら

名古屋水防システム を 検索

<https://nagoya-city.bosai.info/>



同報無線テレホンサービス

防災スピーカーの放送内容を電話で聞くことができます。日本語以外に、英語、中国語、韓国語で聞けます。

日本語：0180-995926 中国語：052-957-9261
英語：052-957-9260 韓国語：052-957-9262

緊急ラジオ放送

MID-FM(周波数 76.1MHz)で名古屋市の緊急防災情報が割り込み放送されます。緊急時には自動で起動する防災ラジオも販売・レンタルしています。また、スマートフォンでも聞けるラジオアプリも配信しています。

ラジオアプリ



名古屋防災ラジオ 検索

名古屋市防災アプリ

名古屋市の地震や洪水の被害想定や避難所、津波避難ビル等の避難情報をスマートフォンやタブレットで確認できます。

iPhone/iPadを

ご利用の方はこちら



アンドロイド端末を

ご利用の方はこちら



なごや減災プロジェクト

名古屋市とウエザーニューズ社が共同で運営するウェブサイトです。市民の皆様から寄せられた被害情報や気象に関する情報を、携帯電話やパソコンを活用してインターネット上で共有することができるとともに、名古屋市の緊急情報もお知らせします。

なごや減災メールを設定すると、設定したエリアで冠水・浸水などの被害が発生した、またはその可能性がある時に、すぐにメールでお知らせします。



SNS (Twitter, Facebook)

平常時は、防災に関するイベントなどの情報や防災の普及啓発に関する情報などを、災害時は、避難に関する情報や災害発生後の生活支援に関する情報を発信しています。

Facebook (名古屋市防災)



Twitter (名古屋市防災)



名古屋市公式ウェブサイト

名古屋市内で災害が発生した場合には、名古屋市公式ウェブサイトのトップページにおいて様々な情報を発信しています。



もっと防災について知りたい方は

| | | |
|--------|--------------|---|
| 市の対策等 | 名古屋市公式ウェブサイト | https://www.city.nagoya.jp |
| 自然現象全般 | 気象庁 | https://www.jma.go.jp |
| Web学習 | 愛知県防災学習システム | http://www.quake-learning.pref.aichi.jp |
| 体験学習 | 名古屋市港防災センター | https://www.minato-bousai.jp |

安否の確認方法

「災害用伝言ダイヤル171」の活用

大規模災害発生時に家族の安否等の情報を電話で伝言として保存したり、再生することのできるNTTが行うサービスです。

伝言の録音方法

①⑦①にダイヤルする

ガイダンスが流れます

録音の場合①

ガイダンスが流れます

(●●●)●●●-●●●

伝言の再生方法

①⑦①にダイヤルする

ガイダンスが流れます

再生の場合②

ガイダンスが流れます

(●●●)●●●-●●●

「災害用伝言板サービス」の活用

大規模災害発生時に家族の安否等の情報を携帯電話を使って文字で登録したり、確認することができるサービスです。お問い合わせは携帯電話各社まで。

「災害用伝言ダイヤル171」「災害用伝言板サービス」を体験してみよう!!

体験できる日

- 毎月1日及び15日 (1月は1日～3日)
- 防災週間 (8月30日～9月5日)
- 防災とボランティア週間 (1月15日～21日)

日頃からの津波への備え

ポイント1

津波から逃げられるように 自宅の安全対策をしておく

地震の揺れによる家屋の倒壊、家具類の転倒などにより、身動きが取れなくなり津波に飲み込まれるおそれがあります。自宅の耐震化や家具類の転倒防止などの対策をしておきましょう。



ポイント2

安全な場所と避難経路を 確認しておく

このマップの「利用方法」を参考に、大津波警報が発表されたときの避難先や避難経路を事前に確認しておきましょう。



ポイント3

備蓄品や非常持出品の 準備をしておく

災害が大規模になった場合、食料などの流通が回復するまでに数日かかることが予想されます。日頃から、チェックリストを活用し備蓄品や非常持出品を準備しておきましょう。



ポイント4

家族の連絡方法などを決めておく

津波からの避難は一刻を争うため、家族がそろって避難をすることが難しい場合もあります。家族が離れ離れになったときの連絡方法や集合する場所などを話し合い、あらかじめ行動計画を作りましょう。



ポイント5

訓練をしておく

いざというときには、訓練で行った以上のことはできません。市が主催する訓練や、「自主防災組織」を中心とした地域での訓練などに積極的に参加しましょう。



マップの利用方法

1

自宅の位置と想定される津波の被害状況を確認しましょう。



自宅の位置と津波の浸水深、浸水開始時間を確認しましょう。また、地域全体で想定される津波の被害状況も確認しましょう。

2

浸水開始時間を踏まえて、避難経路を決めておきましょう。



津波からの避難は「早く、高く」が基本です。浸水開始時間を踏まえて、避難先(高台や津波避難ビル)を決めておきましょう。また、橋の崩落の可能性などを考慮して、避難経路を複数設定しましょう。

3

実際に避難経路を歩いてみて、安全か確認しましょう。



家庭や地域で話し合いながら、実際に避難経路を歩いて、気づいたことなどをマップに書き込んでみましょう。なお、避難経路に危険な箇所がある場合は避難経路を見直しましょう。

※津波避難ビルはお住まいの行政区・学区に関わらずどなたでも最寄りの施設に避難することができます。

津波避難行動

大規模地震が発生



津波避難のポイント

裏面の津波浸水想定エリア内にお住まいの方は、大津波警報が発表されたらすぐに避難しましょう。

ステップ 1

まずは 身の安全を守る

強い揺れを感じたら、頭を保護したり、転倒や落下のおそれのあるものから離れたりして、身の安全を守りましょう。



大津波警報 発表

テレビ、ラジオ、防災スピーカーなどでお知らせします。

津波予報の種類

気象庁は、地震発生から約3分を目安に、津波の警報・注意報を発表します。

津波警報・注意報の種類

| 種類 | 発表基準 | 発表される津波の高さ | | 想定される被害と取るべき行動 |
|-------|--|------------------------|------------|--|
| | | 数値での発表 (津波の高さ予想の区分) | 巨大地震の場合の発表 | |
| 大津波警報 | 予想される津波の高さが高いところで3mを超える場合 | 10m超 (10m<予想高さ) | 巨大 | 木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれます。 沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。 |
| | | 10m (5m<予想高さ≤10m) | | |
| | | 5m (3m<予想高さ≤5m) | | |
| 津波警報 | 予想される津波の高さが高いところで1mを超え、3m以下の場合 | 3m (1m<予想高さ≤3m) | 高い | 標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれます。 沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。 |
| 津波注意報 | 予想される津波の高さが高いところで0.2m以上、1m以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合 | 1m (0.2m≤予想高さ≤1m) | (表記しない) | 海の中では人は速い流れに巻き込まれ、また、養殖いかだなどが流失し小型船舶が転覆します。 海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れてください。 |

ステップ 2

すぐに 避難の準備を

自宅にいる場合

- ・ガスの元栓を閉める。
- ・電気のブレーカーを切る。
- ・家族や隣近所に声をかける。
- ・非常持出品を携行する。



屋外などにいる場合

- ・周りにいる人と状況を確認しあう。
- ・近くの住人に助けを求める。



ステップ 3

あわてず 避難の開始

高台や避難ビルを目指して

津波からの避難の原則は「津波の浸水想定区域外への避難」です。浸水想定区域外へ避難するいとまがない場合は、津波避難ビルに避難しましょう!



津波避難ビルはこのマークが目印です。



徒歩で避難を

原則として、車で避難するのはやめましょう。車での避難は渋滞を引き起こし、かえって避難の妨げになります。



寄り道はしない

津波からの避難は一刻を争います。家のことを心配して引き返したり、貴重品などを取りに戻ったりせず、まっすぐ避難先に向かいましょう。



海岸や川沿いには近づかない

地震の後は、護岸や堤防が被害を受けている可能性があり非常に危険です。決して近寄らないようにしましょう。



津波避難ビルへの避難について

津波避難ビルは、あくまでも一時的な避難施設なので、物資などの備蓄はありません。津波の到達後、津波避難ビルの周辺が長期間にわたって水に浸かり、孤立するおそれがあります。可能な方はできるだけ津波の浸水想定区域外へ避難しましょう。

ステップ 4

確実に 避難の完了

正しい情報の入手

テレビやラジオ、防災スピーカーなどで正しい情報入手し、次の行動に備えましょう。



津波が迫ってきたら少しでも高い所へ

避難が完了する前に津波が迫ってきたら、すぐに周囲の高い所へ避難しましょう。少しでも高い所へ避難すれば、その分、命が助かる可能性が高くなります。

ステップ 5

落ち着いて 避難の継続



津波到達



安全が確認されるまで避難を継続する

津波は繰り返し押し寄せてきます。水が引いても、津波の警報や注意報、避難勧告が解除されるまでは安全な場所で避難を継続しましょう。

家族の行動計画表

家族で話し合っって表に書きこみましょう。

| 名前 | 日頃よくいるところ | 一時避難先(津波避難ビルなど) | 集合場所 | 連絡先 |
|------------|-----------|-----------------|-------|---------------|
| 記入例 名古屋 太郎 | 会社 | 市営△△住宅 | 〇〇小学校 | 090-0000-0000 |

備蓄品・非常持出品 チェックリスト

災害や避難に備えて、普段から準備・点検しておきましょう。

備蓄品 災害に備えて用意しておきたいもの

命をつなぐために用意しておきたいもの

- 保存がきく食品(自分が食べやすいもの)
- 常備薬(持病の薬を含む)
- 飲料水(ペットボトル)

1人1日3リットルが目安です。また、水分の多い食品(ゼリーなど)と組み合わせることで量を減らすことができます。

7日分程度用意しましょう

内3日分程度は非常持出品へ

非常持出品 避難する時に持っていくもの

防災用品

- 携帯ラジオ
- ヘルメット・防災ずきん
- 軍手

貴重品

- 現金(小銭も必要)
- 預(貯)金通帳の写し
- 健康保険証・免許証の写し
- カード類
- 認印・印鑑など

照明等

- 懐中電灯(電池含む)
- マッチ・ライター

感染症対策用品

- アルコール消毒液
- スリッパ
- 体温計
- マスク
- ゴミ袋

医療用品

- 三角きん
- 包帯・ガーゼ
- ばんそうこう
- 消毒薬
- ウエットティッシュ(ティッシュ)
- お薬手帳

防災用品

- 給水用のポリ容器・バケツ
- ロープ
- バール
- のこぎり・工具など

燃料

- カセットコンロ(予備のボンベ含む)
- 固形燃料

寝具等

- 毛布
- 寝袋
- キャンプ用テント

便利用品

- ドライシャンプー

食器類

- はし・スプーン
- 紙皿・紙コップ
- 水筒

便利用品

- 筆記用具
- 新聞紙
- 携帯用トイレ
- キッチン用ラップ
- 使い捨てカイロ
- 雨具
- 手動携帯電話充電器
- トイレットペーパー

衣料品

- 衣類(着替え)
- タオル(大小2種類)

その他

(個人的に必要なもの)

- ミルク(粉・液体)
- 紙おむつ
- 生理用品
- 予備のメガネ・補聴器など
- ペット用品(エサ・水など)



※ローリングストック法

家庭で消費している日持ちする食品を余分にストックしておき、使った分を買い足すことで、普段の生活の中で負担なく備蓄することができ、賞味期限が過ぎてしまうことによる食品ロスを防ぐこともできます。